11）DMP 者の生活範囲を拡大させる為に（影絵を通して）

国立療養所西多賀病院
荒井道子

＜目　　的＞

成人ＤＭＰ患者の中には、そうとう立派な技術を持った人も多い。病気以外の部分で自分達の生活、生きる姿等を表現することにより、自分達の全体像を浮きぼりにして社会の人達との真の理解を深めあうことを願っている。そこで、多々あるサークルの中で試みに影絵サークルの活動を一歩進めて、院外での発表を計画し、彼らの持つ技術の向上と、社会参加の一手段にしたいと考え、実施し、その結果を生活指導に役立てたいと考えているので、ここに報告する。

＜対　　象＞

成人ＤＭＰ病棟影絵サークル員

＜経過及び考察＞

昭和４４年より活動を開始している影絵サークルは、院内文化祭、その他行事を通して、大型紙芝居、ミニ影絵等を作成し、上映、あるいは販売し、子供達に夢をあたえ、喜ばれてきている。幼児、小学生病棟を巡回しては技術をみがくことも真剣に取り組んできましたが、サークル員の生活に対する意欲面を向上させる事の方が大であったように考えられる。それらの中には、創作活動の喜び、小さい子供達への配慮、他病で悩む人達との交流によって生まれる自制心、社会に何かを還元できたことの喜び等、日常療養生活では指導することのできない数々の成果をもたらしてくれている。社会の人達が病院をおとずれる。または病院生活者が、それぞれの技術を生かして一歩社会に踏みだし、お互が理解しあうことにより、一時的な結びつきではない対等な関係がそこにうまれる。その機会を意図的に職員側が設定し、その成果が順調だった育児園での上映活動、地域社会にでて、合宿しながら近所の子供達との交流をはかった時に表われた大きな変化をここで述べてみると、

① 体は不自由ではないが、両親がいないとか、貧乏等で、自分達よりも苦しい、淋しい生活をしている子供達を目の前にして、自分達の生活、考えの甘さを感じる機会になったこと。

② 施設児は、どこか淋しさがあるのでは、と気がつく人もでてくる客観的見方ができたこと。

③ 施設により、人的、物的格差が非常に大きいこと。

④ 地域の子供達がまだまだ社会の人達には一般的ではないと再確認する。

⑤ 表現方法によって子供達を集中させる力が変化すること等そのもろもろの成果をあげる良い効果があげられ、自分達の身辺を再確認している。自分達の持つ力を総結集させて完成させた作品を、子供、あるいは大人にみせて評価をしていただき、その中から患者達の生きる喜び、あるいは社会生活の一部を知る機会でもあると同時に、社会に役立つ自分達の力をより確実なものとしたように考える。こういう機会を段階的に向上させ病棟生活者の生活の一部となって地域社会の人達と交流していけるようになれば、もっと生活に張りができ、心身の良き訓練場をも提供してくれると考える。療養生活を単に楽しませるだけではない豊かな教材として人間の持つ能力を最大に発揮する道

を具体化してくれる一方法にもなりえる。ここでは単に影絵サークルの活動経験をもとにした児童文化のにない手として患者も充分役立つことができる。という結果しか発表できないのではあるが、その行為以外の部分がＤＭＰ成人患者を希望ある生活にさせることも大であることを付け加えて報告にしたい。

12) 余暇の過し方

国立療養所下志津病院
在原 千代子　備前 都
福田 由美子　大塚 加津子
石井 照子

幼児にとって、遊びは、重要な役割を担っていることは、いうまでもなく、同様に、児童期・青年期においての余暇活動も健全な心身の成長発達を促すための重要な要素であると思われます。その児童期・青年期にある、ＤＭＰ症児（者）が、身体的ハンディそのものから狭められた生活空間の中でどのように、余暇活動しているか　その現状を調査してみました。５１年４月現在の患者状況は、入院患者122名、D*ucherne*　型が程んどで、１０歳〜１５歳の年齢層が多く、障害度別では、５度〜７度が多数を占めています。なお、付け加えなければならないことは、当院では、車イス生活ではなく、いざり、四つ這いの生活をしていることです。

以上122名の患者を対象とし、彼らの余暇活動を、個人面接、日常観察によって、調査し、それらを、ビューラー、ハーロックの遊びの分類を参考にして、感覚的活動、運動的活動、模倣想像的活動受容的活動、構成的活動、その他の活動に分類してみました。

感覚的活動とは、音を聞いたり、動く物をみて喜ぶといった活動で、当院においては、比較的知能の低い子が、オルゴールを聞いて楽しむ等がありました。

運動的活動は、他の活動に比べて、非常に少なく、テレビ・ラジオ等の受容的活動が最も多くみられました。また、この活動は年齢が増すと共に増えてきています。

構成活動とは、創作的なもので、低年齢層では、ブロック、プラモデル作りが多く、高年齢層では、トランプ、将棋、手芸等がありましたが、受容的活動に比べると少なく、年齢と共にその割合は、少なくなってきています。その他の活動には、学習等がみられました。

以上のことから、受容的活動の占める割合は、あまりにも大きく、それに反し、運動的、構成的活動の占める割合が小さいことが、特徴としてあげられると思われます。何故、このような特徴が現われるのか、同じ病院生活を送っている、他疾患児（者）の余暇活動の傾向と比較してみました。
他疾患には、腎炎・ネフローゼ症候群、喘息の患者に依頼し、低学年には、普段、どのような遊びをやっているか、５年生以上の患者には、期間を一週間として、一日の余暇時間をどのように過してい

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<目的>

成人 DMP 患者の中には、そうとう立派な技術を持った人も多い。病気以外の部分で自分達の生活、生きる姿等を表現することにより、自分達の全体像を浮きぼりにして社会の人達との真の理解を深めあうことを願っている。そこで、多々あるサークルの中で試みに影絵サークルの活動を一歩進めて、院外での発表を計画し、彼らの持つ技術の向上と、社会参加の一手段にしたいと考え、実施し、その結果を生活指導に役立てたいと考えているので、ここに報告する。